

# アイ 岩手県 | 援隊だよ!

岩手県派遣隊だよ!

(「アイ  
援隊しずおか」より)

県民みんなで 力を合わせ 希望に向かって 一歩ずつ

## がんばろう! 岩手

平成 25 年度冬号

### ■ 震災がれきの再利用

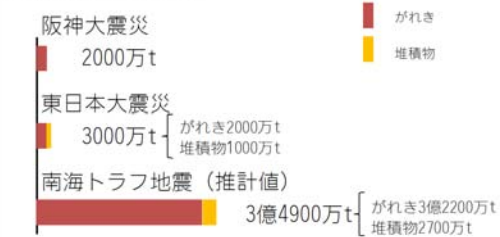


左) 大槌川防潮堤取壊し現場において、  
コンクリート殻から採石を作る様子  
上) 富古港でのリサイクルコンクリート  
製作実験の様子 (国土交通省)

東日本大震災では、震災がれきや津波堆積土砂が約3千万トン発生しました。倒壊した建物や被災した構造物などの震災がれきは、震災から3年かかって、今年度末にようやく処理が終わる見込みです。さらに、これから始まる災害復旧工事においても、大量のがれき（コンクリート殻）が発生する見込みです。ところが、処理費用の値上がり（無筋 Co 殻 H25. 3:2000 円/t→H26. 4:2600 円/t）、処理施設の容量限界や、運搬するダンプの不足等により、容易に処分することができない状況です。

大槌川水門・小鮎川水門の工事では約3万トンのコンクリート殻が発生する見込みで、この処分方法を考える必要があります。現在施工中の仮締切工事では、コンクリート殻を破碎調整（ガラパゴスを使用）して、盛土材として現場内で再利用しています。国土交通省の現場においては、海岸ブロック等の製作で、骨材にコンクリート殻を使うといった、様々な再利用の取り組みが始まっています。

#### 震災がれきの発生量



上) 南海トラフ地震で発生する震災がれきと津波堆積土砂の推計値

このような中で、環境省が南海トラフ地震で発生する震災がれきの推定量を発表しました。これによれば、東日本大震災の10倍以上となる3億トンもの震災がれきと津波堆積土砂が発生する見込みです。コンクリート殻の処理施設や自走式破碎機も数が限られていることから、これらの仮置きや処理の方法、広域連携、取扱い要領などを検討していく必要があります。

## ■ 震災がれきによる土壌汚染の影響



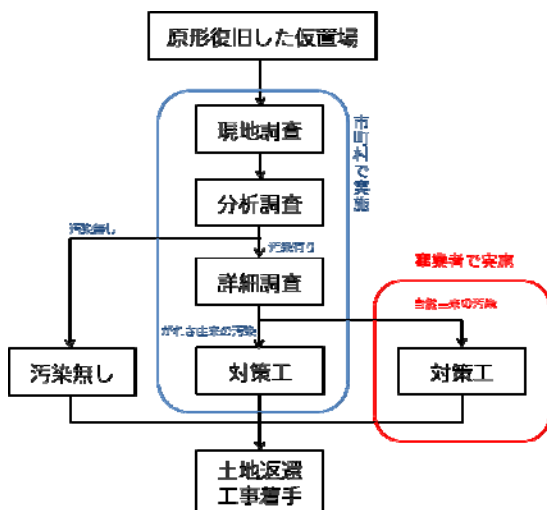
上) 大槌川水門・小鎚川水門の施工箇所 震災がれきの仮置場となっていた

東日本大震災で発生した震災がれきは、岩手県だけでも 388 万 t にのぼります。これらは各地の仮置場に一時保管し、順次処理しており、年度内には処理が終わる予定です。ところが、震災がれきの中には、ヒ素や重金属等の汚染物質が含まれていることがあり、土壌汚染を引き起こす恐れがあります。行政はこれらの汚染に対し、必要な措置を講じてから、土地所有者に返還する責任があります。

大槌町の災害公営住宅の建設予定地は、震災がれきの仮置場でしたが、撤去後に土壌調査をしたところ、基準値を超えるヒ素が検出されました。詳しく調査した結果、震災がれき由来のものではなく、土地造成時に含まれていたものと判明しました。しかし、建築工事にあたっては土壌汚染対策が必要となり、追加の処理費用の発生と工事の遅れが生じてしまいました。

大槌川水門・小鎚川水門の施工箇所も、震災がれきの仮置場となっていた場所です。がれき撤去が終わり、現在、土壌調査を行っているところですが、調査結果が出るまでには約 3 ヶ月を要します。汚染が確認できれば、詳細調査、対策方法の検討、予算の確保、関係機関協議、対策工事（工事発注・掘削除去・流出対策）などで、さらなる時間と労力が必要となります。早期復興が求められる中で、復興の遅れに繋がってしまう一因です。

静岡県では来年度にがれき処理計画を策定する予定です。仮置場の計画箇所によっては、その後の復興に影響が出る恐れもありますので、事前に準備をしておく必要があります。



左) 岩手県の土壌汚染対策フロー

- ①仮置場からがれきがなくなった時点で、市町村が土壌調査を行う
- ②分析調査の結果、汚染が見つかった場合は、市町村が詳細調査を行う
- ③がれき由来の汚染だと判明した場合は、市町村が対策工を行う
- ④がれき以外の汚染の場合には、事業者が自ら対策工を行う



右上) 調査の様子  
右) 採取した土壌サンプル

## ■ 甲子川水門仮締切工事の安全祈願祭を開催しました



左上) 玉串奉納する栗田主査  
右上) マスコミ取材対応

2/28、栗田主査が担当している甲子川水門仮締切工事において、受注者の(株)武山建設の主催で、安全祈願祭が行われました。安全祈願祭の後には、地元ケーブルテレビや新聞社等からの取材があり、工事概要の説明や現場の案内を行いました。

平成 25 年度内には、各水門土木工事が本契約になったので/24 に大槌川・小鮠川水門の安全祈願祭、3/25 に鵜住居川水門の安全祈願祭が行われます。4 月からは本格的に災害復旧工事が動き出します。

## ■ 技術発表会にて講演

1/30、静岡市の「あざれあ」にて平成 25 年度交通基盤部技術発表会があり、応援職員を代表して鈴木主査が講演を行いました。「岩手県での災害復旧事業の現状と課題」と題して、水門や防潮堤工事に携わ的过程中で感じた事柄を発表しました。また、家族で釜石に来ていることから、鵜住居小学校に通う子供たちの防災教育を通して気付く、色々な発見や課題も、静岡県の方々に伝えられたと思います。伝えたい思いがありすぎて、少々時間オーバーとなりましたが、復興の現状を感じていただければ幸いです。



上) 応援職員を代表して講演を行う鈴木主査

## ■ 復興県土づくりシンポジウムにて発表



左) シンポジウムにて発表する八木(秀)主査  
上) トークセッションの様子  
右上) 昨年度の活動について熱弁する山本主査



2/6 に、岩手県主催の復興県土づくりシンポジウムが盛岡市で開催されました。この中で、応援職員の代表として静岡県の八木(秀)主査が、「釜石港復旧における工程調整について」というテーマで、釜石港の復旧工事では、輻輳する工事間の調整や港利用者との調整に苦労している話を発表しました。

また、応援職員たちによるトークセッションでは、元応援職員を代表して土木防災課の山本主査が参加しました。現場にて地元住民の方々と接する中で、応援職員の活動が地元住民には伝わっていないことに気づき、広報に力を入れてきたという経緯を話されました。



## ■ 津波避難 + 福男 = 「祭り」によって震災の記憶を受け継ぐ



上) 高台にある仙寿院と参道（階段ではなく坂道を走りました）

2/2 に釜石市の仙寿院にて「韋駄天競争」が行われました。競争は男女別に行われ、約 40 人が参加し、高低差 14m の参道 290m を走りました。津波が到達した街中をスタートし、高台にある避難場所（仙寿院）まで駆け上がることで、避難場所の位置の確認と、逃げれば助かるという意識を根付かせることが目的です。開催場所の仙寿院では、震災時には約 1200 人の方が避難して助かりました。参加者の 83 歳のご婦人は、震災時にこのお寺に逃げて助かり、今回は感謝の気持ちで参加したそうです。

このイベントは兵庫県の西宮神社で行われている福男選びの神事を参考に、仙寿院が企画したものです。今後も節分のイベントの一部として毎年開催していく予定のようです。I 援隊だより 32 号では津波の記憶や教訓を受け継ぐことは困難と書きましたが、この「祭り」という永く愛される手段を利用して、次世代に伝える取組みは、1 つの解決法として期待されます。

たった 290m ですが、これを全力で駆け上がるのは一苦労です。先のご婦人も大変苦労して上っておられました。避難を考える際（計画でも訓練でも）には、実際に逃げてみて、感覚をつかむことが大切だと感じました。来年度岩手県へ派遣される方々は、ぜひ福男を目指して下さい。

右上) 全力で坂道を駆け上がる参加者  
右) 同じく根本主任



## ■ 復興に向かって～SL 銀河が JR 釜石線で平成 26 年 4 月から運行～

4/12 から JR 釜石線で SL 銀河が土休日を中心に運行します。また、三陸鉄道も南リアス線が 4/5 から、北リアス線が 4/6 から全線運行開始します。ともに現在試験運転中です。3/14 には釜石市街地に大型ショッピングタウンも営業を開始しました。少しずつですが、復興に向かって進んでいます。

ぜひ、SL 銀河に乗って釜石へ来てみませんか。



左上) 4 月から運行する SL 銀河（釜石駅にて）



右上) 3/14 から大型ショッピングタウンが OPEN

### 平成 25 年度 岩手県派遣メンバー

岩手県沿岸広域振興局土木部河川港湾課復興第 2 グループ

主田義也、栗田貴男、八木宏晃、鈴木一弘、八木秀幸、根本健太郎